

は じ め に

近年、記録的な豪雨や高温、巨大台風の発生などの異常気象が頻発しており、気象庁の異常気象分析検討会は、地球温暖化による気温の長期的な上昇により極端な大雨の強さが増大する傾向がみられると公表しています。

地球温暖化は、環境への影響だけでなく、ウイルスを媒介する蚊の生息地域の拡大や永久凍土の溶解により封じ込められていた細菌の活動等、感染症の拡大の危険性も増加すると懸念されています。

昨年末には、中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスが、世界規模でのパンデミックとなり、日本でも緊急事態宣言が発令される事態となりました。

全国の衛生研究所は、新型コロナウイルスの検査対応に忙殺され、通常業務の実施も困難な状況が続いております。このような新しい感染症等の危機事象に対応するためには、研究機関の情報共有や協力体制の強化が、今後ますます重要になってくると思われま

す。当センターは、県民の健康や安全・安心に寄与する「健康危機管理の拠点」として、関係行政機関が所管する感染症法、食品衛生法、医薬品医療機器等法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の各種法令に基づき検査・分析測定を行い、行政措置や行政施策の基礎資料となる分析・測定データを提供しています。

また、試験研究においても、県民ニーズをとらえ、県民目線に立った課題に取り組むため、試験研究評価制度に基づき、各分野の専門家の委員により構成される試験研究評価委員会において、試験研究課題の審査・評価を受けることになっております。

次年度においても、新たな試験研究課題に取り組むこととしており、得られた成果は、学会での発表や年報及びホームページでの公開など、広く情報発信をしています。

このたび、令和元年度の業務概要、調査研究及び試験研究の成果を「徳島県立保健製薬環境センター年報 No.10 (2020)」としてとりまとめました。御高覧の上、御意見や御指導を賜れば幸いです。情報交換、技術的な助言指導を含め、今後とも関係各機関の方々をはじめ、皆様方の御支援、御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

令和2年12月

徳島県立保健製薬環境センター

所 長 三 宅 崇 仁